

月刊

地域保健



●座談会

未来を変える—男性保健師の視点

●フロントランナー

畠山香代さん 《宇多津町健康増進課 主査》

●ピープル

小森美登里さん 《NPO法人ジェントルハートプロジェクト理事》



畠山香代さん

宇多津町健康増進課
書道

「相手の気持ちになること」で解決策が見えてくる

「オールラウンダー」が今の目標

香川県宇多津町



歴史ある新しい街、 宇多津



宇多津町は、人口約1万8000人、面積約8平方キロメートルの小さな町。町のシンボルである青ノ山の頂上からは、瀬戸大橋や塩飽諸島の美しい海の風景を臨むことができる。宇多津町はその昔、日本一の「塩の町」として知られ、入浜式と呼ばれる製法の塩田が海岸一体を埋め尽くしていたそ

うだ。その後製塩は廃止され、塩田は埋め立てられた。その跡地に移設された駅を中心集合住宅や商業施設が集まり、新たな都市づくりが進められている。

臨海部とは対照的に、宇多津町役場の周辺は旧市街で、神社仏閣や讃岐うどんの有名店など、古い町並みが残っている。

産業保健師からスタート

「安全に効率よく」はこのときから

今月のフロントランナーは、香川県綾歌郡宇多津町役場の畠山香代さん。畠山さんは、経験年数20年目の中堅後期の保健師。想像していたより小柄で、

お若い印象だが、ピリッとした心地よい緊張感をお持ちの人。

看護師のお母さんの姿を見ながら育つた畠山さんは、物心ついたときから将来は看護師になりたいと考えてい

「看護学校の実習で、はじめて保健師の分野を知ったのです。病院実習と地域実習では随分雰囲気が違うので驚きました。医療機関は仕事のスピードがすごく速い。だけど地域の保健師は



うたづ臨海公園から見た瀬戸大橋

座談会

未来を変える

男性保健師の視点

全国の行政保健師3万2000人のうち、男性保健師は400人弱といわれている。数の上では1%ほどだが今年は男性保健師誕生から20年の節目にあたり、6月1日には沖縄で初めて「全国男性保健師の集い」が開催された。今月は5人の男性保健師に、よく知られていない男性保健師の思いや実態、男性保健師ならではの役割などについて話し合ってもらった。



新潟県福祉保健部
榎田 健さん



順天堂大学保健看護学部
酒井 太一さん



沖縄県立看護大学看護学部
牧内 忍さん

司会



新潟医療福祉大学健康科学部
杉本 洋さん



磐田市健康福祉部
伊藤貴規さん





一つひとつのケースに もっと熱くなりたい

じっくりと話を聞き、寄り添う訪問を目指して



岡部真弓さん

●相模原市 健康福祉局
こども育成部
南こども家庭相談課

ドラマの影響で 医療系の職業に憧れた

相模原市の保健師になつて今年で4年目の岡部真弓さん。4月から配属された南こども家庭相談課は、東京都心から電車で30分程度、小田急線相模原駅近くの相模原市南保健福祉センターにあります。岡部さんの担当は児童虐待で、ケースワーカーとして配属されました。取材を受けていたいのは配属して3週間足らずで、まだ緊張の絶えない時期でしたが、会つて間もない写真撮影でもご覧のとおり。誰もがすぐに心を開けそうな人懐っこい笑顔と、持ち前の明るい雰囲気で、撮影現場を和ませてくれました。

意外にも小さなころは内気で、家の中で妹とばかり遊んでいましたが、小学校高学年から友達や先生の影響で活発になり、学級委員も務めるようになります。岡部さんが将来の仕事を初

めて意識したのもこのころです。

「当時人気があつたドラマ『救命病棟24時』が大好きだつたんです。患者さんと熱い心の交流を持ちながら、寄り添うのってすてきな仕事だな、あんなお医者さんになりたいなつて思いました。たぶんそれが、医療系の仕事に憧れたきっかけです」

大学2年の授業が 保健師を目指すきっかけ

岡部さんのお母さんは薬剤師で、看護師のハードな仕事を近くで見ていたため、「看護師は死と向き合うことも多いからあなたにはつらいと思うよ。命が誕生する瞬間に出会える助産師のほうが、向いているんじゃないかな」と、助言をしてくれました。

看護学科では助産師の資格も取得できることで、看護師と助産師を目指す気持で受験し、杏林大学保健学部看護学科に入学。そこで、保健師へと進路を変える大きな出会いがあつたのです。

「高校時代、友達の悩みを聞いたり相談相手になることが多くて、みんなに『聞いてもらうと安心する』『聞き上手だね』と言われていたんです。人に寄り添って話を聞くのが好きで、それが誰かのためになつたり、喜んでもらえ